

冬-6 「福」を呼ぼう

1. 活動の目的

- ①季節の行事「節分」について知る。
- ②日常生活の中に浸透している「お守り」や「縁起担ぎ」を話題に、「福」や「幸せ」を願う気持ちを共有する。
- ③日本の「縁起」の習慣を知り、人付き合いに生かす。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

☆鬼の面

☆神社のお守り袋 (実物)

3. 活動の手順 留: 留意点 参: 参考 発: 発展的活動

活動1

鬼の面

- ・「豆まき」を見たり、したりしたことがある学習者がいたら、どこで見たか、どんなことをしていたか、したかなど経験を聞いてみる。
- ・「父親が鬼になって、子どもが豆をまくことが多い」「まず、福は内で福を招き入れ、次に鬼は外で鬼を追い出して、すぐ窓を閉める」というような、家庭での豆まきの習慣を紹介する。
- ・「邪」とされるものは国によって違うが、鬼の面を見せて、もし学習者の国で「邪」とされるもののイメージがあれば、その絵を描いてもらうのもよい。

活動2

神社のお守り袋

- ・一般に知られているお守り (日本・学習者の国) について話す。何のお守りか (安産、交通安全、合格祈願など) 聞いてみる。
- ・写真のお守りについて知っている学習者がいたら、話してもらう。全部についてボランティアから説明する必要はない。

参 写真のお守りは左から 中国 (開運厄除け)、トルコ (目玉のお守り 魔除け)、日本 (安産お守り)、韓国 (唐辛子のお守り 厄除け)

発 自分だけの「お守り」について話す。いつも身につけていて、自分を守ってくれていると思うものについて話してもらう。

活動3

- ・「おまじない」の意味がわからない (説明できない) 場合は、いくつか具体的な例を挙げる。テキストのミサンガ、「愛の南京錠」を例にするとよい。ミサンガが自然に切れると願がかなうと言われる。また「愛の南京錠」は恋人同士が写真のように錠をかけると、絶対別れないと信じられているもの。
- ・「こうしたら幸せになれる、願い事がかなう」というような風習はどこにもあるので (「七夕に願いをかけるとかなう」「ローマのトレビの泉で後ろ向きにコインを投げるとまたローマに来ることができる」など)、学習者から上手に話を引き出す。

活動4

留 活動2と活動3は内容が共通している部分があるので、きちんと分ける必要はない。お土産としてもらったりあげたりすることも多く、アクセサリとして身につけたりするもするお守りについて、学習者に自由に話してもらおうとよい。

- ・表の項目1つずつについて、日本の欄に書かれていることをボランティアが説明し、学習者の国ではどうか、話してもらおう。

留 日本の欄のうち、特に書くことがないところは空欄になっているが、ボランティアが紹介したいことがあれば、言っても差し支えない。

- ・表の項目以外にも、日本では／学習者の国ではこういうことはしないとか、相手にいい印象を与えないというようなことがないか聞いてみる。

参 贈ってはいけないとされるものの例

[中国] 置時計：置時計を贈る(song zhong)=送終（死を看取る）

ハンカチ：悲しいときに涙をふくもの

[ロシア] 黄色い花は関係が終わることを意味する。赤いカーネーションは、墓前に供えるもの。

[韓国] 靴を贈るのはタブー。「この靴を履いて、さっさと去れ」とか、「靴を履いて逃げられてしまう」ということを示す。

- ・このような風習を守るか、気にしないか（特によくないとされていることについて）、具体例を挙げて聞いてみる。
- ・もし、外国で生活していて（ボランティアも学習者も）自分はその国の習慣を知らなかったり、相手が習慣を知らなかったりしたとき、どう思うか聞いてみる。

例) 韓国人の学習者に：日本人の友達から靴をプレゼントされたら？

ボランティアに：アメリカ人の友達に黄色い菊の花束をプレゼントされたら？

留 ここでは「こうするのが正しい」「こうしなければならない」と結論付けるのではなく、縁起やタブーの話を通して様々な文化、価値観があることに気づいてもらうことが目的である。